

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は2021年度日本陸上競技連盟規則・競技会における広告及び展示物に関する規程、及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

2 練習について

- (1) 練習はプログラム記載の指定された会場で、使用日程に従って実施すること。
10月21日(木) 13:00～16:30はメイン競技場も練習会場として開放する。
- (2) 練習場役員の指示に従って実施すること。
特に投てき練習については、監督の付き添いのもと、危険防止に努めること。
- (3) 練習会場の入退場時は、必ずADカードを明示すること。
- (4) メイン競技場、補助競技場でのチューブを利用した牽引走やメディシンボール、ミニハードル、ラダー等の用具を使用する練習は全面禁止する。
- (5) メイン競技場の練習について
 - ①トラック種目及び走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳は使用可とする。投てき種目については練習内容を限定して許可する。詳しくは練習会場使用日程及び練習会場での注意事項を確認すること。
 - ②10月22日(金)～10月24日(日) 7:00～8:20までメイン競技場を開放する。
詳しくは練習会場日程で確認すること。
 - ③レーンの使用は原則、次の通りとする。なお、逆走は禁止する。

レーン	種目
1～2レーン	周回レーン（主にスピード練習）
3～9レーン	短距離・ハードル（8・9レーン：300mH3台）
ホーム3～9レーン	短距離・ハードル（6・7レーン：100mH5台 8・9レーン：110mH5台）

- (6) 補助競技場の練習について
 - ①レーンの使用は次の通りとする。なお、逆走は禁止する。

レーン	種目
1～2レーン	周回レーン（主にスピード練習）
3～6レーン	短距離・ハードル（5・6レーン：300mH3台）
ホーム3～11レーン	短距離・ハードル（7・8レーン：100mH5台 10・11レーン：110mH5台）

- (7) 多目的広場と自由広場及び球技場の練習について
 - ①練習時間については、練習会場使用日程に従って実施すること。
 - ②円盤投は多目的広場で行う。
 - ③ハンマー投は自由広場で行う。
 - ④砲丸投は多目的広場と補助競技場両方で行うことができる。
 - ⑤やり投の突き刺しの練習は球技場で行うことができる。
ただし、助走をつけての投てき練習等は練習会場使用日程に指示された時間に補助競技場で行う。
 - ⑥メディシンボール、ラダー、ミニハードルを使用した練習については多目的広場の区切られた場所で行うことができる。ただし、周囲の安全には十分注意すること。
 - ⑦投てき用具などの練習用具は準備しないので、各自で持参すること。
- (8) 棒高跳の練習について
 - ①補助競技場にも準備するが、前日、当日ともメイン競技場でも練習を行うことができる。
練習時間については、練習会場使用日程に従って実施すること。
- (9) 練習は練習会場使用日程及び各施設の練習計画に沿って、安全に留意して行うこと。

3 招集について

- (1) 招集所は、第2ゲート（1500mスタート）外側付近に設ける。
- (2) 種目別の招集開始・完了時刻は、プログラムの競技日程に記載している。
- (3) 招集方法については、次の通りとする。
 - ①招集開始時刻に招集所で競技者係の点呼を受ける。その際、アスリートビブス・競技用靴のスパイクピン及び靴底の厚さ・競技場内で着用するウェアや持ち込むバッグ類の商標点検を受ける。トラック競技のみ腰ナンバー標識（2枚）を受け取る。
 - ②通信機能の付いた時計や携帯電話等、【競技規則TR6.3.2】に関わる機器を持ち込んでいないか確認を受ける。
 - ③競技者の衣類、物品を含む広告物については『競技会における広告及び展示物に関する規程』が厳格に適用される。
 - ④代理人による点呼は認めない。
 - ⑤各種目を欠場する場合は、招集完了時刻30分前までにTICに用意している「欠場届」に必要事項を記入してTICに提出すること。
 - ⑥招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を欠場したものとする。

4 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、主催者が用意したものを、そのままの大きさと胸・背部に着用すること。ただし、跳躍種目の競技者については、どちらか一方で良い。【競技規則TR5.7～9】
- (2) トラック競技の競技者は、腰ナンバー標識（2枚）をそのままの大きさとショーツまたは下半身の横に貼り付けること。
- (3) アスリートビブスとADカード、プログラムの配布は、次の場所、時間帯に行う。

21日（木）	メイン体育館玄関前	11：00～16：30
22日（金）	メイン体育館玄関前	6：30～16：30
23日（土）	メイン体育館玄関前	6：30～16：30
24日（日）	TIC	6：30～12：00

ADカードは、参加者1名につき、監督コーチADを1枚配布する。
ただし、ADカードは愛媛県への来県前72時間以内のPCR検査もしくは抗原定量検査での陰性証明書か陰性結果が分かるものを受付で提示して、確認を受けた者に配布する。
ADカード規制のある場所では必ず着用すること。
- (4) 3000m・3000mWは、胸・背部に別アスリートビブスを使用するので、競技開始1時間前までに、招集所（競技者係）へ別アスリートビブスを受け取りに行くこと。その際、正規のアスリートビブスを持参すること。

5 競技場への入退場について

- (1) 招集所から競技者係の誘導により競技場に入場する。
- (2) トラック競技の予選においては競技終了後、競技役員の指示に従い各自でスタート位置まで帰り、荷物を持って退場する。ただし、決勝（9人以上出場のトラック種目も含む）においては出場者全員の荷物をミックスゾーンに主催者が運ぶ。
フィールド競技においてトップ8に残れなかった者は、競技役員の指示に従い最寄りのゲートより退場する。
- (3) トラック競技、フィールド競技ともに決勝において8位までに入賞した者は、ミックスゾーンに移動して、そこでインタビューを受けた後、競技役員の指示により各自の荷物を持って入賞者控所に誘導され待機する。競技役員の指示により行動し、表彰を受ける。表彰時の服装は、迷惑撮影・盗撮防止の観点から競技用ユニフォームは禁止とする。表彰終了後は、競技役員の指示により退場する。

6 番組編成について（レーン順・試技順）

- (1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の番号順とする。
- (2) トラック競技決勝の組み合わせ及びレーン順は、日本陸連公式WEBサイトへ掲示する。
- (3) トラック競技において次ラウンド進出者を決めるにあたり、【競技規則TR21.1～5】を適用する。
着順と時間で進出者を決める際に、着順で決める最後の1枠が同成績だった場合は、同成績の競技者を次ラウンドに進出させ、その分、時間で進出する競技者を減じる。それもだめな場合は抽選とする。
- (4) 抽選が必要な場合は、当該競技者にアナウンスで連絡し、大会本部において当該競技者あるいは代理人による抽選を行う。なお、アナウンス後20分を経過しても当該競技者あるいは代理人が来なかった場合は、主催者が代行する。

7 競技規則について

- (1) トラック競技について
 - ①トラック競技の掲示は、全て写真判定装置を使用する。
 - ②レーンで行うトラック競技においては、欠場者のレーンは空ける。
 - ③短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
 - ④不正スタートをした競技者は1回で失格とする。【競技規則TR16.8】
400mまでの競走では判定の補助としてSIS（スタート・インフォメーション・システム）を使用する。ただし、U16の種目においてはSISは使用しない。
 - ⑤男女3000m競歩においてはペナルティゾーンを設ける。【競技規則TR54.7.3】
- (2) フィールド競技について
 - ①走高跳を除くフィールド競技の計測は、全て光波距離計測器を使用する。
 - ②走高跳を除く跳躍種目、やり投及びジャベリックスローの競技者は、助走路の外側に主催者が準備したもの、または承認したマーカーを2個まで使用できる。サークルから行う投てき競技は、マーカーを1個だけ使用することができる。走高跳の競技者は、各自で用意したマーカー（粘着テープ、2カ所まで）を助走路内に使用することができる。
 - ③三段跳の踏切板は、砂場からU18男子は13m、U18女子は10m、U16男子は11mと10m、U16女子は9mと8mを設ける。
 - ④跳躍種目は全てA・Bピットに分かれて行い、競技終了まで割り当てられたピットは変更しない。
 - ⑤競技場内での練習は、全て競技役員の指示に従う。
 - ⑥フィールド競技が行われる近接のスタンドに「コーチングエリア」を設ける。競技者への助言はこのエリアから行うことができる。競技者にビデオ等の映像を見せて助言することは差し支えないが、吊り下げや手渡し、当該競技エリアから離脱するような行為、文書を持って連絡することは認めない。
 - ⑦試技数については、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、ジャベリックスローは全ての競技者に2回の試技が与えられる。試技2回終了時点の上位8名には、さらに2回の試技が、与えられる。
走高跳・棒高跳は、連続する2回の無効試技で、競技終了とする。
- (3) 競技者は審判員の許可を得ること無く、勝手に競技場所を離れることはできない。
【競技規則TR25.19】
- (4) 競技者としてあるまじき行為をした競技者には、警告が与えられ、場合によっては競技から除外される。警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことによって競技者に知らされる。
【競技規則CR18】
- (5) 競技前に行う公式練習は、1人2回を原則とする。

8 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は、棒高跳用ポール以外全て主催者が用意したものを使用しなければならない。
なお、投てき用具の持ち込みは、競技場内に全く無い、もしくは1つしか無いモデルの場合のみ、検査を受けて合格したものは許可する。（別紙投てき用具一覧表を確認）
- (2) 投てき用具の持ち込みを希望する者は、前もって日本陸連HPに載せてある「投てき用具検査申請書」に必要事項などを記入し、当日競技開始90分前から60分前までに、「投てき用具検査申請書」を添えてTICに申し出ること。「投てき用具検査申請書」はTICにも用意する。
また、その際に日本陸連検査済シール及び刻印の無い用具の持ち込みはできない。
- (3) 検査に合格した用具は「預かり証」を渡し、一括借り上げとして参加競技者で共有できるものとする。
競技終了後にTICで「預かり証」と引き替えに返却する。
- (4) ハードル種目の規格は次の通りとする。

U16男子110mハードル		U16女子100mハードル		U18男子110mハードル		U18女子100mハードル	
高さ	ハードル間	高さ	ハードル間	高さ	ハードル間	高さ	ハードル間
0.991m	9.14m	0.762m	8.50m	0.991m	9.14m	0.762m	8.50m
				U18男子300mハードル		U18女子300mハードル	
高さ	ハードル間	高さ	ハードル間	高さ	ハードル間	高さ	ハードル間
0.914m	35m	0.762m	35m				

- (5) 投てきの重量は次の通りとする。

	U16男子	U16女子	U18男子	U18女子
砲丸	5.000Kg	2.721Kg	6.000Kg	4.000Kg
円盤	1.500Kg	1.000Kg	1.750Kg	1.000Kg
ハンマー			6.000Kg	4.000Kg
やり			800g	600g
ターボジャブ	300g	300g		

9 走高跳・棒高跳について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、最後になり優勝が決定するまでは次の通りとする。
ただし、天候などの状況により変更することがある。

種目種別	練習	1	2	3	4	5	6	7	以降
U16男子走高跳	1m80	1m83	1m88	1m91	1m94	1m97	2m00	2m03	以後3cmずつ上げる
U18男子走高跳	1m87	1m90	1m95	2m00	2m03	2m06	2m09	2m12	以後3cmずつ上げる
U16女子走高跳	1m50	1m55	1m60	1m63	1m66	1m69	1m72	1m75	以後3cmずつ上げる
U18女子走高跳	1m55	1m60	1m65	1m68	1m71	1m74	1m77	1m80	以後3cmずつ上げる
U16男子棒高跳	3m80	3m90	4m00	4m10	4m20	4m30	4m40	4m45	以後5cmずつ上げる
U18男子棒高跳	4m40	4m50	4m60	4m70	4m80	4m85	4m90	4m95	以後5cmずつ上げる
U16女子棒高跳	2m00 2m60	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	3m10	3m15	以後5cmずつ上げる
U18女子棒高跳	3m10	3m20	3m30	3m40	3m50	3m60	3m70	3m75	以後5cmずつ上げる

※最後の1人になり優勝が決まるまでは、上表の上げ幅を変えてはならない。
ただし、【競技規則TR26.4.2】の場合は除く。

- (2) 公式練習について
 棒高跳は公式練習の説明後、担当競技役員に「棒高跳支柱移動届申」を提出する。
 その際、U16女子棒高跳に出場する選手は希望する練習の高さを担当競技役員に申し出る。
 棒高跳はゴムバーを使用し、高さは正規の高さに設定して行う。

10 競技用靴について

- (1) スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。
 いずれの場合も本数は11本以内とする。また、スパイクの先端近くで長さの半分は4mm四方の規定に適合するように作られていなければならない。【競技規則TR5.3～4】
- (2) 競技用シューズについては2020年7月28日から有効となったWAシューズ規程を適用する。
【競技規則TR5.2】
 靴底の厚さは、800m未満のトラック種目（含むハードル）は20mm以内。800m以上のトラック種目は25mm以内。競歩種目ではロード種目と同様とする。
 フィールド種目においても日本陸連主催の大会であるため、三段跳は25mm以内。その他のフィールド種目は20mm以内とする。【競技規則TR5.5/TR5.13.3】

11 結果発表と抗議について

- (1) 各種目結果発表は、大型映像装置及びアナウンスで行う。掲示板による発表は行わない。
- (2) 発表された結果に対する抗議は、【競技規則TR8】によって定められた時間内（同一日に次のラウンドが行われる場合には、アナウンス後15分、それ以外は30分）に、競技者もしくは代理人がTICを通じて審判長に対して口頭で行い、審判長からの裁定を聞く。さらに、この裁定に納得がいかない場合は預託金（10,000円）を添えて、TICを通じて Jury に「上訴申立書」で申し出る。
 なお、この裁定は最終の決定となる。「抗議申立書」はTICに用意する。

12 表彰について

- (1) 各種目の優勝者と2・3位には賞状とメダル、4位から8位には賞状を授与する。
 優勝者と2・3位は競技役員の指示により主催者によって設けられた表彰場において受賞する。
 4位から8位の受賞者は入賞者控所において受賞する。

13 その他

- (1) 応急処置その他健康上の問題が生じた場合は、本部に連絡して処置を受ける。医務室は中央廊下体育館側に設置されている。
- (2) 公園内の公道上に各団体のテントを設営することは禁止する。
- (3) 会場内（メイン競技場、補助競技場、多目的広場、自由広場）への入場はADカードを明示する。
- (4) 更衣室（テント）は、補助競技場に用意している。更衣室は更衣のみに使用し、荷物は更衣室には置かず各自で管理する。
- (5) 大会期間中の貴重品の管理は各自で行い、紛失等に関して、主催者は一切の責任を負わない。
- (6) 「記録証明書」を希望する競技者は、該当競技終了後30分以内にTICまで「記録証交付願」に必要事項を記入し、500円を添えて申し込むこと。後日送付する。（当日の発行はしない）
- (7) 送付された棒高跳ポールは、第3ゲート下の用器具庫で保管しているので、各自で確認すること。
 棒高跳競技終了後、日本陸連HPのポール輸送システムを利用している場合、TICにおいて手続きをするとともに、配送料を支払うこと。
 なお、運送業者の棒高跳びポール回収は10月25日(月)になるので、用器具庫で保管しておく。

TICに用意されている各種用紙

	提出書類	用紙提出場所	
1	欠場届	TIC	招集完了時刻30分前まで
2	棒高跳支柱移動届	競技場所	入場後、担当競技役員へ提出
3	記録証交付願	TIC	該当競技終了後30分後まで
4	上訴申立書	TIC	競技規則で定められた時間
5	投てき用具検査申請書（預かり証）	TIC	競技開始60分前まで